年間授業計画

足立工科 高等学校 令和８年度（１学年用） 教科　芸術　科目 書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数　2　　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　４組

教科担当者：　（１組～４組：奥平将太）

使用教科書：　（　書Ⅰ　）

教科　芸術　の目標：

【知識及び技能】表現・および解釈に必要な知識と、基本的な技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品について、根拠をもって評価・判断し、次段階の表現につなげることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目　書道Ⅰ　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の特質を理解し、用具用材の特徴と用筆運筆と関係性を実技を通して体得する。書の美の表現を目指し、自らの意思に基づいて構想を練り、それを実現するための技能を臨書活動を通して身につける。	作品や書の伝統とその文化的価値を考え、書の美を鑑賞する資質や能力を育てる。体得した知識技能を生かし深い鑑賞力を身につけ、構想に対する表現の工夫や分析的な思考をより深くする。感じ方や考え方の多様性を自覚し、適切な用語で言語化できるようにする	自身の活動を振り返り見通しを立てながら試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組む姿勢を身に着ける。書の美を感受しながら、生活や社会の中での書や文字の意味や価値を主体的に見出す姿勢を身に着ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			漢仮	漢	仮						
１学期	芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識の確認と理解を深めて芸術的視野を広げる。	学習内容と用具用材の基礎知識。 書体の流れとその歴史背景との関連。 筆順の大原則・特例・由来及び筆順と文字造形の関連。		○	○	○	用具用材の的確な知識の習得。 漢字五書体と仮名の書体の流れをつかむ。 筆順の正誤の確認と原則・例外の習得。 文字造形における筆順の意味を知る。	○	○	○	6
	書の専門的な事柄を理解させ、よりわかり易く指導・実践する。	楷書の基本用筆及び基本点画。 楷書の歴史。 用具・用材の特性を知る。 用筆・運筆の理解、基本点画の習得。		○		○	正しい執筆法・用筆法・姿勢の理解と実践。 用具用材の活用の理解と実践。 楷書の基本結構を習得する。	○	○	○	8
	用筆・運筆と文字造形の関連性の理解。 楷書の文字造形の法則性を理解・実践。 楷書の多様性を知る。	臨書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛橛造像記 鄭羲下碑		○		○	造形をよく観察し、用筆を工夫しているか。 様々な古典の背景や特色を理解し、的確に表現する。 古典の内容により深く迫ろうとしているか。 創作	○	○	○	12
２学期	線を連続して引く手法の理解と実践。充実した訓練により、高い習熟度の達成。筆脈の貫通した造形の理解。様々な行書の古典を鑑賞し、書風の違いについて関心を持ち、意欲的に表現する。	行書の歴史。 行書の基本用筆・運筆法の理解及び基本点画の習得。 臨書 集字聖教序・蘭亭序		○		○	回し込み・返し、腕法・手法の習得。 筆脈の貫通した造形の習得。 各古典の特色の理解と鑑賞を通して、表現に反映できたか。創作	○	○	○	18
	単体一文字ごとの基本形と運筆の習得。穂先のあたり・回転の習得。筆の流れによる文字と行の造形の関連の理解と実践。連綿専線の方向と長さ、文字の配置の工夫の重要性の理解と実践。	仮名の歴史。 仮名の用具・用材や執筆と基本用筆法の理解。 仮名の用筆・運筆法の理解と単体の習得。連綿の運筆法・造形の理解と習得。 変体仮名を知る。			○	○	基本用筆と文字造形の習得。 連綿の構成法の理解と運筆の実践。 仮名の特色の理解と、鑑賞を通して表現に反映できたか。	○	○	○	10
３学期	紙面統一の方向性を考える。 読みやすさや受け取る相手のことを考えた書き方。 ペン字の学習。	生活の中の書。 ペンなどの日常筆記具の執筆と基本用筆法の理解。 ハガキや手紙・表書きなどの書き方。	○			○	基本用筆と文字造形の習得。 文字の大きさや配置。 受け取り手のことを考えて、読みやすく配置したり丁寧に書くことができたか。ハガキや手紙・表書きのルールが理解・実践できたか。	○	○	○	6
	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 芸術の意味を考える。	漢字仮名交じりによる創作。 色紙作品を書く。	○			○	用筆を統一し、変化のある構成を図る。 想像力を働かせ、しっかりと構想を練り、推敲を重ねて個性を発揮する。 制作した作品を見直し、自分の進歩・変化を省みる。	○	○	○	10 合計 70